



「災害に対する備え 皆さんはどう考えていますか」

日本介護支援専門員協会の災害対応状況と北関東の連携について

日本介護支援専門員協会 災害対策特別委員会 委員長 川田 雅一

群馬県の皆様はじめまして。

とちぎケアマネジャー協会の副会長をしております川田雅一です。
どうぞよろしくお願い致します。

今回は北関東ブロックより選出され活動している災害対策特別委員会の委員としての活動を踏まえ、現在の日本介護支援専門員協会の平時を含めた災害支援の活動状況、今後の北関東ブロックとしての連携などについて書かせていただければと思います。



まず、皆様もご存知の様に、ここ数年日本では毎年、災害が起きています。私たちのいる北関東でも2015年の9月に関東・東北豪雨災害があり、茨城県での鬼怒川の堤防の漏水、決壊などもあり多くの死者がでる大惨事になりました。その後も現在まで激甚災害として指定された災害が7件もあり、間違いなく指定されるであろう、本年9月の北海道胆振東部地震も含めると、ここ4年の間に9件もの激甚災害が発生していることになり、1990年に激甚災害法が改正され基準が下がったとはいえ災害の発生確率は間違いなく上昇しています。合わせて、今まで災害が少ないと言われていた地域でも災害が起きるようになり日本全国どこにいても被災者となりえるのが現状です。

こういった状況のなか、日本介護支援専門員協会の災害対策特別委員会としては、ケアマネジャーが発災時に備え、平常時からどんな準備をしていくべきか、発災後の対応を含め様々な情報をまとめた「災害対応マニュアル」の発刊、発災時に現地でボランティアのコーディネーターとして活躍できる災害支援ケアマネジャーの育成を目的とした「災害支援ケアマネジャー養成研修会」を実施するなど精力的に活動しています。災害支援ケアマネジャー養成研修は東京でのみ行っていましたが、昨年度からは災害対策特別委員等を各支部に派遣し全国各地で開催しております。初回となる栃木県で開催した際には群馬県の皆様にも参加していただき、ありがとうございました。

実際の災害支援としても熊本地震、西日本豪雨（平成30年7月豪雨）に厚労省からの依頼を受け日本介護支援専門員協会からボランティアを派遣しています。

熊本地震を例にあげさせていただきますと、発災の3日後には熊本県庁にて厚労省現地対策本部との打ち合わせを行い、その後も益城町（被害が大きかった町）役場等での行政機関、現地医療機関、各種職能団体との打ち合わせになどにも何度も参加し、現地地域包括支援センターの活動支援として避難所の実態把握調査や在宅全戸訪問（高齢者実態調査）を1万件を優に超える件数を実施しました。活動したケアマネジャーも延べ人数803名、活動人数381名の方に支援していただきました。 →

また、先日の西日本豪雨災害でも岡山県、広島県に支援に入らせていただき、平成30年8月31日時点で介護支援専門員のボランティア派遣人数は延べ524名、戸別訪問等の実態把握調査も広島県呉市で1,820件、岡山県倉敷市で3,702件の支援活動を行わせていただきました。

こういった支援活動に関わらせていただくことで、各地域の災害支援を受け入れる力（受援力）の差、各支部の被災情報などの情報発信能力の違いも感じるようになってきました。

私たちの地域は発災時に事務局としての機能を維持し被災情報などの情報発信を行い、行政機関との連携を図りながら全国各地から来るボランティアとの連携も図り支援していく体制が整っているでしょうか。

もしかしたら整っていると言える地域は、どこにもないのかもしれない。

災害の規模によっては、その地域自体の災害支援をする自助、互助能力、災害支援を受け入れる受援力が全く機能しなくなる可能性もあります。そういった場合に備え、平常時から隣県が被災した際には事務局機能を代わりに受け持つなど様々な形で、お互い支え合えるシステム作りをしていく必要があるのではないかと考えています。

近年、私たち北関東ブロックの3県も研修会などを通じ連携も密になってきました。

そして2020年には北関東にて全国大会が開催されることも決定いたしました。

これから全国大会に向けて、北関東で連携を密に図り全国大会を成功させなければなりません。

こういった連携が深まる機会に、災害についても一緒に考えていくのはいかがでしょうか。

発災時に備え平常時から北関東3県で合同研修などを行うなど連携を図り、被災した際にも出来るだけ減災出来るように、そして発災前の状況に1日でも早く復興できるように北関東で手と手を取り合い、災害に強い地域づくりをしていくことが、必要ではないでしょうか。

災害支援ケアマネジャー養成研修会の机上訓練でも、平常時からの連携の大切さを痛感させられるのですが、本当に平常時からの準備がどれだけ出来ているかによって災害をどれだけ減災できるか大きな違いが出てきます。



群馬県の皆様、災害に強い地域作りにご協力よろしくお願い致します。

そして2020年の全国大会の際には是非、栃木県にいらしてください。一緒に最高の全国大会を作りあげましょう。

各支部の紹介

利根沼田支部

- 支部長：岡島 真実
- 支部連絡先：一般社団法人沼田利根医師会
ぬまたとね医療・介護連携相談室
TEL 0278-25-3671



沼田支部は平成12年8月に沼田市を中心とした1市2町6村（現在は合併し1市1町3村）で登録されていた介護支援専門員を中心に県内でもいち早く活動を開始しました。世代交代にて一時期は減少した会員も現在は95名となりました。

今年度より新たな試みとして、人口減少と高齢化が進む地域での支援を、多職種連携でそれぞれの負担軽減ができないか、他の団体と協力して検討しています。薬剤師会とは自宅訪問の際に薬の問題や疑問があれば、ファクシミリ連絡し相談できる仕組みを開始し、防災士会の協力で災害に備えての基礎知識や災害時の行動を学ぶなど、これから不足する人材が職域を超えて連携・協力することでカバーでき、少しでも住みやすい地域になるように力を発揮していければと思います。

高崎安中支部：高崎・安中支部

- 支部長：中西 有美子
- 支部連絡先：パナケア真中（株）高崎居宅支援事業所
TEL 027-384-3211



高崎・安中支部の現在の会員数は、260名程です。身近な圏域で行う高崎地区と安中地区に分けた地区研修と支部全体で行う支部研修を定期的に行っています。

今年度は、支部研修として、4月には「我が事・丸ごと 地域共生社会の実現に向けた取り組み」の研修を元厚労省の講師をお呼びして行っています。10月には「担当者会議のポイントと実践力の向上」の研修をケアマネジャーの実践力のスキルアップを図る目的で、行なっています。地区研修では、地域の職能団体と一緒に研修会を企画して、多職種との連携を深め、「顔の見える関係づくり」の一步になって頂けるように、努力しております。研修後にはアンケートを実施し、会員の皆様が求めている研修の企画をしていきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

吾妻支部：ケアマネ吾妻の会

●支部長：田村 広行

●支部連絡先：嬭恋村社会福祉協議会 居宅介護支援事業所 佐藤 義浩
TEL 0279-96-1617



吾妻支部は毎年3月の宿泊研修が恒例となっています。しかし今年度は役員会で相談し、秋の時期に開催してみようということになり、10月13日(土)～14日(日)に開催を予定しました。内容としては、地域で活躍している外丸雅晴先生(外丸歯科医院)をお招きして、『地域歯科医療の最前線からの提言「健口」長寿を支援する～地域包括ケアシステムにおける歯科の役割～』で講演をいただく予定です。「食べること」は非常に大切なことですので、口腔機能に関してもう一度見直してみる機会になればと考えています。夜は恒例の懇親会を予定しています。みんなで、お酒を交わしながら普段のストレスを発散して頂ければと思います。吾妻郡内の各団体にも声をかけて連携をはかりたいと予定しています。

その後の研修も役員で相談しながら予定し、会員数の増加の活動も行っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

前橋支部：手をつなごうケアマネの会

●支部長：野中 和英

●支部連絡先：ケアプランセンター老研 TEL 027-253-3398



前橋支部では今年度の総会后、情報交換会を行いました。制度改正後の加算の算定方法について、医療との連携方法、ケアプランの目標期間の設定についてなどの情報交換が活発に行われました。日々悩んでいる介護支援専門員は多く、今年度は現場での悩みを少しでも解消できるための研修会を開催する予定です。

そのため、9月に市内の全ての居宅介護支援事業所にアンケートをお願いしました。他の事業所・介護支援専門員に聞きたいこと、今後参加したい研修内容などについての要望を聞き、介護支援専門員が望んでいる研修会を開催していきたいと思っております。

手をつなごうケアマネの会では、これからも会員の皆様のスキルアップにつながる研修会などを企画していきますので、積極的なご参加をお待ちしております。

桐生支部：ケアマネわたらせの会

●支部長：小沼 説雄

●支部連絡先：居宅介護支援 元助 TEL 0277-70-1556



私たち「桐生支部・わたらせの会」も平成13年3月に設立以来17年を経過し様々な意味で当初とは大分異なる状況となっております。支部会員数は70名弱、年2回～3回程度の研修活動を行っており、近年地域包括ケアや医療介護連携が叫ばれるようになった事もあり、行政・医師会等との関わりも多くなってきております。

会員数は微減傾向となっております。その為、新規会員の確保や現会員の加入継続、役員の固定化も大きな問題です。これらの諸問題に対し、どのように対処していくのか今まで以上に真剣に取り組まなければならない時期に差し掛かっていると理解しております。支部活動を今後どのような方向に運営していく事が会員一人一人の「興味」や「資質向上」に結びつくのかを考える必要があります。そのためにも新しい若い活力をいかに会活動に結びつけるかが重要な課題となっております。

伊勢崎支部：伊勢崎佐波ケアマネジャーの会

- 支部長：岡田 稔
- 支部連絡先：ケアマネジメントセンターおおいど TEL 0270-50-0710

伊勢崎佐波ケアマネジャーの会は、会員約 100 名おります。役員が下記の 4 つのグループに分かれて年間の活動を行っています。「支援サポート」ケアマネを支援するような研修会等を主に活動の中心としています。



「医療との連携」医師会との合同研修や在宅支援塾の開催を中心に活動をしています。「広報委員会」ホームページの管理と会員の情報発信や県協会広報情報委員会への参加等を行っています。「行政との連携」介護予防フェスタへの参加を中心に行政とのつながりのある活動を行っています。以上のようにそれぞれのグループが会員に対して、あるいは市民に対して、医師会や行政と連携を図りながら活動を展開しています。

今年度の活動として、講演会の開催、支部会員の交流会、在宅支援塾の開催、介護予防フェスタへの参加、ホームページを通じての最新の情報提供を予定しています。その他、医師会や市・県からの依頼に対して、随時に対応していく予定です。

太田支部：ケアマネかなやまの会

- 支部長：浅沼 郁子
- 支部連絡先：介護老人保健施設ふじあく光荘 高田 勢子
TEL 0276-32-1212

太田支部は、発足当時から 1. 個々の介護支援専門員の資質向上 2. 他の機関、専門職との連携強化 3. 会員相互の協力体制の確立と情報の共有という基本方針のもと、毎年 6 月に開催されます定期総会、年間 2～3 回の研修会の開催、偶数月 第 3 木曜日の 19 時から開催されていますケアマネカフェの運営等を中心に役員会、研修委員会を開いています。



今年度は第 15 回ケアマネジメント群馬フォーラム in 東毛の開催のお手伝いをさせていただき、また、7 月 17 日に第 1 回目の研修会「制度改正に伴う実地指導の進め方」を、9 月 19 日に第 2 回目の研修会「認知症初期集中支援チームの活動と現状」を開催し、多数のケアマネジャーにご参加いただくことができました。

今後も皆さんの力を集結して特にケアマネカフェを、基本方針の 2 であります「他職種連携」の観点から運営して参りたいと思います。

富岡甘楽支部：富岡・甘楽支部

- 支部長：萩原 敦子
- 支部連絡先：富岡市地域包括支援センター 飯野 秀一
TEL 0274-62-1511

当支部は昨年度より研修会に加え、定期的に勉強会を開催しております。毎回好評を頂きながら、ケアマネジャー以外の職種の方にも参加して頂いております。介護や医療・地域包括ケアなど毎回テーマを工夫しながら、グループワーク等を行い会員の皆様のスキルアップや多職種交流のお手伝いをしております。8 月 8 日（水）には医師会や歯科医師会の先生方等を交え、毎年恒例の懇親会を開催いたしました。50 名を超える方々に参加いただき、意見交換等を行いながら大盛況のなか親睦を深める事ができました。



今後も地域のケアマネジャーの皆様を始め関係者との顔の見える関係づくりを進め、地域に貢献できる活動が出来ていければと考えております。

多野藤岡支部：多野藤岡支部

- 支部長：関口 将史
- 支部連絡先：藤岡市地域包括支援センター 横山 ルミ
TEL 0274-22-1211



多野・藤岡支部は、藤岡市・神流町・上野村で活躍中の会員（約85名）で支えあっております。昨年は、藤岡多野医師会と共同で、医療や介護の情報のやり取りを効率的かつ円滑にすることを目的に、統一書式（藤岡多野サービス照会票）を作成、運用を開始しましたが、皆様のご理解、ご協力により順調な経過を辿っております。

また、当支部は毎年3～4回の研修会を開催しており、その中でも、群馬県認知症疾患医療センター共催の事例検討会、藤岡多野医師・歯科医師会の先生方や医療関係者との交流を兼ねた研修会は、参加者も年々増えてきております。今後も、会員数の増加につながるような魅力ある支部を目指し、活動していきたいと考えております。

邑楽館林支部：邑楽館林支部

- 支部長：船田 浩史
- 支部連絡先：明和町包括支援センター TEL 0276-50-1605



邑楽・館林支部は、館林市・板倉町・明和町・千代田町・大泉町・邑楽町の1市5町からなる地域のケアマネジャーから構成されています。館林邑楽在宅医療・介護ネットワークや館林邑楽在宅ケア研究会等の様々な研究会・委員会等に参加をさせていただいております。

掲載の写真は在宅医療介護連携相談センターたておう主催で行われた「ケアマネの集い」の参加風景のものです。地域で行われる様々な研修会等を通して、介護支援専門員協会としても各職種関係機関との連携強化、多職種協働への取り組みに力をいれていきたいと考えています。

渋川支部：渋川圏域支部

- 支部長：村上 忠明
- 支部連絡先：特養 清流の郷 TEL 0279-56-9201



『第2回渋川地区医療・看護・介護連携フォーラム2018』が平成30年6月24日（日）開催され、支部もケアマネジャーの仕事紹介となんでも相談の内容で参加しました。

トータルで750名の参加者があり盛況でした。30名ほどの方が、なんでも相談に立ち寄られました。ケアマネジャーのブースの両隣が、地域包括支援センター・訪問看護のブースのため、相談内容によってはすぐに繋いでいくなど、効果的な活動も多くできました。

基本は、一般市民向けのフォーラムですが、関連職種が一堂に会しているため、互いの活動の確認や新たな顔つなぎ、情報交換の場としても大変有意義な企画だと実感しています。

来年も同時期に開催予定のため、支部の企画もバージョンアップを図りたいと思います。

理事会・委員会報告

理事会

会長 大澤 誠

会員数が伸び悩んでいます。平成30年8月末日現在の正会員数は959名で、前年比-48名です。総務財政担当の松澤副会長からは事あるごとに会員への呼びかけはなされていますが、残念ながら上記の状況であり、ホームページを通しての申込み方法の簡素化や申込んだことの確認方法について検討をすることになりました。次回総会は2019年(年号は?)6月8日(土)で特別講演の講師は、先のフォーラムで好評だった“あたご研究所”の後藤佳苗先生と決まりました。また、ケアマネジャーにとって有益と思われる研修会情報をホームページ上でも、随時掲載することとなり、即座に実行しました。

総務財政委員会

総務財政委員長 松沢 斉

平成30年度も残り半分となりました。ケアマネの専門研修I・II、主任ケアマネ・同更新研修にあっている人はもちろん、その他にも行政や各種団体主催の研修も目白押し、毎年度下半期は研修だけでもなかなかヘビーですよ。それだけケアマネジャーに対する時代の要請が高い?多い?とにかく期待されてるって事です。前向きに考えましょう。

さて、いろんな研修に自主的に参加すると、その研修の内容と時間によっては、更新研修の際に「読み替え」が効いて、多少なりとも研修を受講する身体的・精神的・時間的・経済的な負担が減少したら良いと思いませんか?じつは、日本協会がここ何年も国と話し合いを持っていることなのです。特に何も変わっていないということは、少なくとも期待する方向へは進んでいないということですが、それは日本協会の会員数が決して多くはないということと無縁ではありません(と私は思っています)。是非是非入ってください!県協会にも日本協会にも!交渉ごとは「数が力」なのです。

学術研修委員会

学術研修委員長 菅野 圭一

毎年恒例の、「2018年介護支援専門員実務研修受講試験対策講座(通称:ケアマネ受験対策講座2018)」を8月18日より開始し、9月29日にオプション講座を終えました。今回の参加者も例年と同様、活力あふれる受講者が集まりましたが、現任ケアマネジャー5名のブラッシュアップを含めても、27名の参加で、大幅に減少した昨年度をさらに下回るものでした。今年度は受験資格の改訂により、受験者の大幅減少も予想されていました(実際減少したようですが、実数は不明です)が、それだけでは本講座受講者減少は説明できないと思います。今後来年度に向け、(長く続いたこの講座の中止も含めて)理事会で話し合っていこうと思います。

広報情報委員会

広報情報委員長 松本 勝美

ケアマネ群馬111号を発行しました。111号はフォーラム特集号として参加された多くの会員の皆様に執筆依頼をさせて頂きましたが、快くお引き受けして頂き有難うございました。今後もいろいろな研修会等で執筆をご依頼致しますので、何卒よろしくお願い致します。ホームページにつきましては少しずつですが新しい情報を掲載しております。ぜひご覧になってください。そして、ご意見を頂ければより使い勝手の良いものに変更して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

コラム

残薬問題について

残薬問題は患者さんの健康のみならず、日本の財政問題にまで影響を及ぼしている事をメディアでよく耳にします。

自宅に飲み忘れなどの薬が大量にたまる（残薬）。多くの種類の薬を処方され適切に服用出来ない人だけでなく、自己判断で薬を中断する人もいます。医療費が無駄になる他、きちんと服用しない事で症状が悪化し改善がなければ更に薬が増えるという悪循環もあり、各地で対策が進められています。

厚生労働省の統計によると昨年度医療費全体で40兆円。薬剤のみで5兆6千万円と全体の14%を占めている事が分かりました。各地域比においては多い所で3千3百億円、少ない所でも100億円というデータを目にしました。

「薬はただではない。社会保障（税金）から賄われ無駄になった薬が国の財政を圧迫している。」事を一人一人が念頭に置く必要があると感じました。

しかしながら認知症の高齢者世帯や高齢者夫婦世帯が年々増加する中、世帯間で適切に管理する事は困難です。同時に超高齢社会の日本では今後莫大な金額になる事は容易に想像できるでしょう。

上記については長期的に見据え、様々な弊害に目を向け他職種と連携を図っていく事でわれわれケアマネジャーが少なからず寄与できる部分もあると思います。自身も今回のコラムを通じ残薬問題について意識変化が生まれる良いきっかけとなりました。

（基礎資格 介護福祉士・社会福祉主事 T・T）

事務局からのお願い

平成30年度会費の納入はお済みでしょうか

会員の皆様には日頃より本会の運営に関しましてご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。さて、平成30年度会費の納入はお済みでしょうか。

本会は会員の皆様の会費により運営いたしております。会費納入にご協力の程を、よろしく願いいたします。

また、本会では会員の皆様に会報や研修会のご案内をお送りしております。

これらのご案内は次号から会費を納入下さった方のみ限定させていただきます。

なお、これ以降は会費納入の確認ができ次第ご案内をお送りする予定です。

また、ご不明なこと等がございましたら、事務局までご連絡ください。

一社）群馬県介護支援専門員協会事務局（群馬県社会福祉協議会 地域福祉課内）

TEL 027-255-6226 FAX 027-255-6173（事務担当：新井）



記録的な猛暑や災害が全国的な規模でみられております。今回の記事が皆さんの防災への意識にお役に立てたでしょうか。今回初めて編集担当をさせて頂きました。慣れない作業でしたが、多くの方にご協力頂き編集を行う事ができました。ありがとうございました。（T・U）